

## トピックス

1. 2018年はバイエルン記念 Year! → Page 1
2. ミュンヘン市庁舎で日本企業賀詞交歓会 → Page 2
3. 第1回 日独サイバーセキュリティフォーラム → Page 2
4. バイエルン州のInsurTech → Page 3
5. サイバーセキュリティ・サミット「コマンド・コントロール」 → Page 4
6. 「バイエルンふれあいウォーク」のご案内 → Page 4
7. 一枚のシュニール織から高齢者施設の寄付へ → Page 5
8. 安川ヨーロッパ アラースハウゼン新社屋 → Page 6
9. バイエルンの歴史ー白い黄金「塩」 → Page 6

## 1. 2018年はバイエルン記念 Year!

2018年は、「バイエルン」という場所にとって歴史的記念の年です。まず200年前に遡れば、「1818年のバイエルン王国憲法制定から200年」です。更に、100年前の1918年、バイエルンは「自由州バイエルン」を宣言しました。そして、今から30年前の1988年、バイエルン州政府初の海外事務所として「バイエルン州駐日代表部」が東京にオープンしました。

バイエルン州駐日代表部は、バイエルン州政府の日本における代表事務所です。更に、バイエルン州経済省の企業誘致部 Invest in Bavaria の日本での窓口としての機能も担っています。そのため、日本との間の姉妹都市交流や芸術・文化・スポーツの振興、バイエルン州から来る訪日視察団の支援から日本企業に対する企業誘致、バイエルン州経済に関する広報活動まで、幅広くバイエルン州についてのご紹介を行っています。

例えば、バイエルン州には日本の14自治体との姉妹都市・友好都市関係があります。そして、世界の玄関となっているミュンヘン空港には羽田空港から毎日2便が行き来しています。日本からバイエルン州に来るビジネスマンや観光客の年間宿泊日数は30万泊に迫る勢いです。日本との貿易も盛んで、2016年の日本からの輸入額は約33億ユーロ、バイエルン州からの輸出額は36億ユーロ以上にもなります。バイエルン州内には日本人学校や日本語補習校、日本食レストランなども数多くあります。バイエルン人の日本への関心も高く、日独協会やそのほかの交流団体により、日本文化に親しむ機会も増えています。

### バイエルン州駐日代表部 30周年記念マーク発表!

さて、この記念すべき2018年、バイエルン州駐日代表部は30周年記念のマークを作りました。

日本のお祝い事に用いられる「水引」と、バイエルン州の名物であるハート形パン「ブレツェル」をモチーフにしています。「水引」の結び目を「ブレツェル」で表し、色はバイエルン州のシンボルカラーである白と「青」、日本の旗の色でもあり、慶事に用いられる「赤」、そして、お祝いの気持ちを表す「金」を使っています。

今年一年は、多くの皆様にこのマークを目にさせていただく機会を作りたいと思います。「バイエルン・フォーラム」と銘打ったバイエルン企業との交流イベントを11月に、また、昨年開催して好評を博した「日独サイバーセキュリティフォーラム」を今年も計画中です。今後もバイエルン州、そしてバイエルン州駐日代表部をよろしく願っています。



Bayerische Repräsentanz Japan

### 1818年ー改定バイエルン王国憲法の公布 ←200年前

1818年5月26日、マクシミリアン1世は新たな憲法を公布しました。1808年に制定された最初のバイエルン王国憲法から、多くの改革がなされました。王の権力が制限される立憲君主制となり、二院からなる身分制議会が導入されます。1819年2月にはバイエルンで初めての議会が開かれています。その後の改革により、法の下での平等、信仰の自由、言論の自由、階級ではなく能力による官職への登用などが実現されていきます。

100年後の1918年に第一次世界大戦が終わるまで、この1818年のバイエルン王国憲法は効力を擁したのです。

### 1918年ー自由州バイエルンが誕生 ←100年前

第一次世界大戦末期の混乱の中、1918年11月7日、ジャーナリストで独立社会民主党の指導者であったクルト・アイスナーが少数の社会主義者と武装兵を率いてミュンヘンで革命を起こしました。既に王政は衰えており、ほとんど抵抗もないまま、アイスナーは11月8日、「自由州バイエルン」を宣言します。最後の王となったルートヴィヒ3世は退位宣言書に署名し、バイエルン王国はここに終わりを告げます。

アイスナーは「自由州バイエルン」の初代首相となり、共和政の下で女性の参政権、8時間労働が実現されました。しかし、翌1919年2月の選挙でアイスナー率いる独立社会民主党は大敗、辞任表明を行うために議会に向かう途上、アイスナーは右翼将校に暗殺されたのでした。

## 2. ミュンヘン市庁舎で日本企業賀詞交歓会

毎年恒例となった在バイエルン日本企業賀詞交歓会はミュンヘン市、在ミュンヘン日本国総領事館、日本貿易振興機構（JETRO）、ミュンヘン日本人会、そしてバイエルン州経済省企業誘致部 Invest in Bavaria の共催で行われる、バイエルン州の日本人コミュニティにとって欠かせないイベントとなっています。今年も1月12日、約120名の参加者がミュンヘン市庁舎の2階にあるゴシック様式の歴史的なホールに集まりました。



賀詞交歓会は木村徹也在ミュンヘン日本総領事を始め、来賓による挨拶で始まりしました。現在バイエルン州に在住の日本人は約8400人、バイエルン州に拠点を持つ日系企業数は約440社にもなります。総領事は2017年の夏にバイエルン州のイルゼ・アイグナー経済大臣が日本を訪れたことに感謝し、日本とドイツには多くの共通点があり、今後も様々な分野で協力の可能性が広がるだろう、と述べました。

続いて Invest in Bavaria の Dr. ヴォルフガング・ヒュプシュレ代表は、バイエルン州における日本人ビジネスコミュニティの拡大を歓迎し、2018年は日本とバイエルン州の友好関係にとって特別な年になるだろうと話しました。というのは、今から30年前に東京にバイエルン州初の在外代表部が設立されたからです。ヒュプシュレ代表はこの記念すべき年を祝福するため、今年バイエルン州と日本で様々なイベントを予定していると発表しました。

ミュンヘン市経済振興課のリタ・ロイダー企業誘致担当課長は会場となったホールの歴史を紹介しました。この豪華なホールはかつて、王や貴族だけが使用を許されていたということです。在バイエルン日本企業の賀詞交歓会をこのホールで行うということは、ミュンヘン市にとってどれだ

け日本人コミュニティが大切かということを表している、と話しました。JETRO デュッセルドルフの渡邊全佳事務局長も登壇し、イギリスのEU離脱に関する興味深い調査結果を報告しました。JETROの調査によると、EU離脱を期にイギリスから拠点を「移したい」あるいは「移す予定」、または「検討中」と答えた企業は25%でした。そのうち「ドイツを経済拠点として優先的に考えている」と答えた企業は23社あったそうです。また、特に関心を引いた話題は、JETROのミュンヘンオフィス再開についてでした。現在はまだ具体的な情報はありませんが、バイエルン州にある多くの日本企業がJETROミュンヘンオフィスの開設を期待しています。

そして、ミュンヘン日本人会の竹下敦副会長は、来年2019年に迎えるミュンヘン日本人会40周年について言及しました。5年前にはまだ75社だった法人会の会員が、現在では100社を超えるまでになったことに喜びを表しました。会員の増加は日本人会による様々な活動に対する評価の表れでもあります。

賀詞交歓会では、バイエルン州駐日代表部30周年記念に伴い、Dr. ヒュプシュレ Invest in Bavaria 代表とバイエルン州駐日代表部の Dr. クリティアン・ゲルティンガー代表から、三菱東京UFJ銀行ミュンヘン出張所（小岩淳一所長）に感謝状が贈呈されました。バイエルン州と三菱東京UFJ銀行は1988年9月16日、バイエルン州と当時の東京銀行の時代から良好な関係を築いてきました。東京にバイエルン州の代表部を設立する際にも、東京銀行がミュンヘンに拠点を置いていたことが助けになりました。三菱東京UFJ銀行もまたミュンヘン出張所を通じ、常にバイエルン州との良好な関係を築いてきました。

このように、30年前の1988年はバイエルン州が様々な分野のパイオニアとして国境を越え、初の代表部を設立した年でもあり、バイエルン州にとって記念すべき年だったのです。

2018年の賀詞交歓会では日本の伝統に則って鏡開きが行われました。法被を着た来賓の方々が木槌で酒樽を開き、出席者は日本酒で乾杯しました。立食パーティーにはバイエルン州の名物料理とお寿司が振る舞われ、久しぶりに一堂に会した日本企業の出席者らは話も尽きない様子でした。

**バイエルン州駐日代表部にとって30周年にあたる2018年、在バイエルン日系企業の皆様の活躍を楽しみにしています。そして新たな日本企業の皆様とバイエルン州で出会えることを願っています。2018年が大きな実りの年でありますように！「乾杯」！**

## 3. 第1回 日独サイバーセキュリティフォーラム

インダストリー 4.0、IoT、AI、ビッグデータ、自動運転、スマートインフラ—これらは先進的な技術ですが、世界のどこにあっても、攻撃や悪用から安全かつ確実に保護されなければなりません。こういったサイバーセキュリティ分野で高い専門性を提供できるのがバイエルン州です。

2017年11月29日、「第1回 日独デジタル化社会へ向けての対話」のイベント2日目に、「日独サイバーセキュリティフォーラム」が在日ドイツ商工会議所、セキュリティネットワーク・ミュンヘン、バイエルン州デジタル化推進センターおよびバイエルン州駐日代表部の主催により衆議院第一議員会館で開催されました。後援にはIoT推進コンソーシアム、日本ネットワークセキュリティ協会、情報処理推進機構およびセキュアIoTプラットフォーム協議会が名を連ねました。



開会の挨拶をするセキュリティネットワーク・ミュンヘンのペーター・メーリング氏

セキュリティネットワーク・ミュンヘンのメンバーであるシーメンス、インフィニオン、ギーゼック&デブリエント、ローデ・シュワルツ、富士通テクノロジソリューションズなどのバイエルン州企業幹部の他、ドイツ技術者協会（VDE）の代表者がこのイベントのために来日しました。日本からは後援機関の代表者や三菱電機、新興企業 FFRI、NTT コミュニケーション科学基礎研究所などが登壇者として集まり、更に個人情報保護法などに精通した法律事務所やコンサルタント会社などが一堂に会しました。出席者は約 120 名にもおよび、サイバーセキュリティについての取組や提言、活動報告などに聞き入りました。

フォーラムでは「インダストリー・サイバーセキュリティ」「認証とデジタル・アイデンティティ」「人工知能」「情報とデータセキュリティ」「重要社会インフラのための IT セキュリティ」などをテーマに、各専門家が発表を行いました。すべてのセッションに共通していたのは、これらの課題が一国の努力で解決するものでなく、より広く国際的な協力が不可欠である、という認識でした。企業はセキュリティ対策をコストやハードルと捉えがちですが、これはむしろ将来への投資であり、このような認識が社内にしっかりと根付いていかなければなりません。フォーラムでは、2018 年 5 月から効力を発揮する欧州の新たな個人情報保護法についても取り上げられました。欧州と取引のあるすべての企業はこの法律に対応する必要があります。

日本が 2017 年にドイツのハノーファーで開催された CeBIT でパートナー

国となったことは、日独産業界にとってインパクトのある出来事のひとつでした。フォーラムの交流会に出席した西銘恒三郎経済産業副大臣はそのことに言及し、各社・団体のインフォメーション・ブースが並ぶ交流会場で日独経済協力の拡大を呼びかけました。

今回のフォーラムでバイエルン州企業を取りまとめたセキュリティネットワーク・ミュンヘンが主催する Munich Cyber Security Conference (MCSC) 2018 が、2018 年 2 月 15 日にミュンヘンで開催されます。今年で 4 回目の開催ですが、これまでにマイクロソフトやカスペルスキー、インフィニオンなどから幹部が出席している実績のある会議です。

→ [http://it-security-munich.net/wp-content/uploads/SaveTheDate\\_MCSC\\_2018.pdf](http://it-security-munich.net/wp-content/uploads/SaveTheDate_MCSC_2018.pdf)

更に 9 月 20 日から 22 日まで、ミュンヘンの国際会議場 ICM でサイバーセキュリティ・サミット「コマンド・コントロール (Command Control)」が開催されます。3 日間で 100 以上のワークショップが予定されています。

→ <https://cmdctrl.com/en/>

もちろんミュンヘンでは恒例の IT セキュリティメッセ、「it-sa」が 10 月に控えていることも忘れてはならないでしょう。

→ <https://www.it-sa.de/>

**今後も引き続き活発な議論が行われるよう、日本の皆様もバイエルン州のイベントにぜひご出席ください。**

## 4. バイエルン州のインシュアテック

バイエルン州は既存のエコシステムと意欲的なスタートアップのおかげで、デジタルスタートアップの本場として益々存在感を高めています。これはインシュアテックの分野でも同じです。というのは、若い起業家の意見やアイデア、イノベーションが如何に重要か、という点について、保険業界のビッグプレイヤーたちが十分に理解しているからです。

こういったビッグプレイヤーの正しい認識により、昨年には支援プログラム「W1 Forward InsurTech Accelerator」が誕生しました。また、有名な保険会社 12 社が、業界のデジタルトランスフォーメーションに積極的に関与する目的で、「社団法人インシュアテックハブ・ミュンヘン」を設立しました。しかし、話はそれだけでは終わりません。

### スタートアップ会議 DIA がミュンヘンへ

ドイツ連邦政府のデジタルハブ・イニシアティブの一環としてバイエルン州の州都ミュンヘンがインシュアテック・ハブ支援対象地域になったのは既に以前お伝えした通りです。それに続き、「デジタル・インシュランス・アジェンダ (Digital Insurance Agenda = DIA)」がミュンヘンで開催されました。これは重要なステップです。

インシュアテック最大のイベント DIA は昨年の 11 月 15 日・16 日、ミュンヘンのアイスバハ・スタジオで開催されました。イベントのオフィシャルパートナーはインシュアテックハブ・ミュンヘンのメンバーであり、12 社の保険会社を含む企業や業界団体です (ADAC、ARAG、Die Bayerische Generali、HUK-Coburug、WWK、保険業会議所など)。DIA の開催で業界は大いに刺激を受けました。1000 人を超える来場者を前に、世界中のインシュアテック企業 60 社が最新のデジタルソリューションを紹介し、テクノロジー系大手企業が基調講演に熱弁をふるいました。

バイエルン州で開催された DIA の盛り上がりは一時的なものではありませんでした。先ごろ主催者が発表したところによれば、2018 年 11 月、DIA は再びミュンヘンで開催されることになりました。今から予定表に「ミュンヘンで DIA」と書き込んでおきましょう。

### Werk1 のインシュアテック・アクセラレーター

ところで、DIA は前述の支援プログラム「W1 Forward InsurTech Accelerator」でも重要な役割を果たしています。既に 2016 年に好評だったこのプログラムの第 2 弾が 2017 年初めにスタートしました。世界中の応募者の中からスタートアップ 5 社が選ばれ、ミュンヘンにあるインキュベーション施設 Werk1 で個別のコーチングや幅広いネットワーキングを含む広範な支援を受けました。専門家によるレクチャーや、キーパーソンと知り合える質の高いネットワークへの参加も支援事業として用意されました。

2017 年 11 月 16 日、DIA の最終日には選ばれた 5 社のスタートアップ、Heartshield、Etherisc、Karlsson、Personiq、Tapoly の創業者はそれぞれ、世界的な投資家の前で最終発表の機会を得ました。こうして 2017 年のプログラムは終了しました。

### シリコンバレーのサポート

国際的なスタートアップの会議やインシュアテック・アクセラレーターの活動の他、今年からはシリコンバレーのサポートも新たに加わりました。一流のアクセラレーターである「プラグ&プレー」がバイエルン州にインシュアテック部門の支社を設立したのです。インシュアテック・ハブとなっているミュンヘンに、近い将来プラグ&プレーのインシュアテックに特化したマーケットが出現する可能性もあります。

プラグ&プレーは、昨年 11 月 14 日に DIA のオープニングイベントでミュンヘン支社のキックオフを行い、実際の活動を 2018 年にスタートすると宣言しました。インシュアテック産業の支援で培った経験があるからこそ、Invest in Bavaria は、今回のプラグ&プレーの誘致に成功しました。バイエルン州はインシュアテック産業の中心地として益々発展していきます。

## 5. サイバーセキュリティ・サミット「コマンド・コントロール」

デジタル化とITセキュリティ、この2つは切っても切れない関係です。だからこそ、2018年のバイエルン州で見本市“it-sa”の後、ITセキュリティ分野において、“it-sa”の次に重要なイベント“Command Control – The Leading Summit for Cyber Security”が開催されるのは、ごく当然のことでしょう。

昨年行われた最も重要な研究開発の成果に焦点をあてるこのイベントは、2018年9月20日にミュンヘンでスタートします。ITセキュリティはITだけの問題でなく、既にずっと以前から、あらゆる産業にとって成長の中心的原動力です。まさにだからこそ、「コマンド・コントロール（Command Control）」はCEO、CIO、CISO、IT部門長、データセキュリティの受託業者、技術と製造の責任者を対象にして開催されるのです。参加者はITセキュリティの膨大な守備範囲について、「データプロテクション」、「人的要因」、「規制」、「インフラとセキュリティ」、「つながる工場」の5つのテーマから専門的知見を得ることができます。

「コマンド・コントロール」は純粋な展示会としてではなく、スキルアップ講座やネットワーキング、ワークショップ、ショーケースなどの様々なイベントスタイルで構成されます。ミュンヘンのようなハイテク産業拠点では、トップを走る技術系企業が多数存在するだけでなく、同時にスタートアップ企業や研究機関などもあり、それぞれが協力しながら共同研究を進めています。更に、ミュンヘン市内には将来的にドイツ最大となるサイバー研究センターを持つ連邦防衛大学もあります。主催のメッセ・ミュン

ヘンは、そういった多方向からのアプローチを紹介するために、独自のスタイルでイベントを行うことにしました。

### ITセキュリティを語る場として

この新しいイベントの開催地として、バイエルン州はふさわしい場所でしょう。バイエルン州の第2の都市ニュルンベルクでは、既に2009年以来世界で最も重要なITセキュリティの展示会“it-sa”が開かれています。昨年は500社以上のトップクラスの出展者が集い、多くのセミナーが行われました。

セキュリティネットワーク・ミュンヘンと Invest in Bavaria はインターナショナル・タウンホールミーティングを共催し、3つの基調講演が行われました。講演でBSIのDr.ゲルハルト・シャープフューザー副社長は、「デジタルトランスフォーメーションの時代にサイバーセキュリティを如何に構築するか」を問いました。AUDIの情報セキュリティ最高責任者アルヴィド・ロシンスキー氏は「人工知能時代のセキュリティ」について講演しました。CyberSparksのロニ・ツェハーヴィーCEOは「将来サイバー危機に直面した場合、エコシステムはどれだけの衝撃を受けるか」という課題を提示しました。基調講演の後で行われた「バイエルン・ネットワーキング・ランチ」では、世界中から集まったサイバーセキュリティの専門家たちが活発に意見を交換しました。バイエルン州には、ITセキュリティの会議の場としてふさわしい土壌が既にできています。

## 6. 「バイエルンふれあいウォーク」のご案内

2018年5月27日(日)にフランケン・ワインの名産地を歩く「バイエルンふれあいウォーク」が開催されます。

ANAセールス(株)の人気ツアー「ふれあいウォーク」は現地の人たちとツアー参加者が一緒にウォーキングを楽しむイベントです。今回の開催地はバイエルン州フランケン地方。フランケン・ワインで名高いヴェルツブルク近郊の町ファール(Fahr)を起点に約6kmの道を歩き、フォルカッハ(Volkach)にゴールする行程です。途中にはワインの試飲ができる休憩所も設けられています。ゴールのフォルカッハから船でキッツィンゲン(Kitzingen)までメイン川クルーズをしながらのランチブッフェが用意され、夜はヴェルツブルクのマリエンブルク要塞でフランケン料理やワインビールを楽しむ夕食会「バイエルンの夕べ」が開かれます。ヴェルツブルクはロマンチック街道起点の街で、日本ともゆかりの深いフランツ・フォン・シーボルトの生まれ故郷としても知られる日本びいきの街です。市内のマリエンブルク要塞は外せない観光スポットです。その要塞の中にあるバンケットルームでの夕食は「バイエルンふれあいウォーク」のハイライトになるでしょう。

「ふれあいウォーク」はこれまで、フランスのアルザス地方や中国のアモイでも開催されてきました。今回はじめてドイツで開催される「バイエルンふれあいウォーク」は、6日間から8日間の全7コースのツアーに盛り込まれています。いずれのコースでも5月27日(日)が「バイエルンふれあいウォーク」となります。バイエルン州と言えば有名なノイシュバンシュタイン城がありますが、このノイシュバンシュタイン城を含めて、州都ミュンヘンやおもちゃの街ニュルンベルクを回るコースも用意されています。のんびりと景色を楽しみながらウォーキング、現地の人たちとふれあい、更にフランケン・ワインと名物料理を堪能できるとすれば、参加しないわけにはいかないでしょう!現地、ドイツからの参加も可能です。

ツアーの詳細は →

[https://www.ana.co.jp/ja/jp/inttour/europe/germany\\_fureaiwalk/](https://www.ana.co.jp/ja/jp/inttour/europe/germany_fureaiwalk/)

お問い合わせは →

ANAセールス(株) 0570-055-860 (IP電話からは050-3819-9257)

[受付時間] 9:30~18:00(土・日・祝日および5/1を除く)

## 7. 一枚のシュニール織から高齢者施設の寄付へー日本の女性実業家の物語

バイエルン州の伝統的なシュニール織で作られたフェイラー (FEILER) の商品は、美しい花柄のソフトな質感の高級タオルで、それを素材として作られたハンドバックやエプロンなどは日本の女性に大変人気のある商品となっています。このタオルを製造しているフェイラー社は、ワグナー祝祭歌劇場があるバイエルン州バイロイトの東 65km、チェコ共和国との国境にあるホーエンベルク・アン・デア・エーガーという人口 1500 人の小さな町にあります。1928 年の創業以来、実に 90 年の歴史のある企業です。日本で大変人気のある「フェイラー」のタオルは、この町で生まれました。まさにバイエルン州が誇るブランドのひとつです。2017 年 11 月、この町に高齢者介護施設 “Yamakawa Seniorenhaus (YSH)” がオープンしました。この施設の名前に冠された Yamakawa という日本人こそ、この物語の主人公です。



名誉市民として署名する山川和子氏 (左から: ホフマン市長、山川氏、フェメル大臣)

山川和子氏がフェイラーのタオルと出会ったのは 1968 年、後にご主人となるアーロン氏と欧州旅行中のことでした。専門店のウィンドーに並ぶ美しいタオルを見つけた瞬間、その美しさに魅せられた山川氏は手持ちのお金の許す限り、お店にあったタオルを購入しました。まさに「運命的な出会い」でした。しかし、その時はこれが彼女のその後の人生を変えるとは本人自身思いもよらなかったのです。

日本で輸入会社「モンリーブ社」を立ち上げた山川夫妻は、1970 年にフェイラーのタオルを初めて日本に輸入します。しかしこのタオルの真の価値が浸透し、今日のような高級ブランドとしてのフェイラー商品が生まれるまでには様々な努力が必要でした。タオルの輸入からからはじめた夫妻は、その後、高品質なフェイラーのシュニール織物を素材とした婦人・家庭用品などの独創的な商品の開発も手掛けていきます。フェイラー社の丁寧なモノづくりと日本での商品開発のおかげで、両社は徐々に事業を拡大していきます。

こうして日本で「フェイラー」を不動のブランドにした山川夫妻でしたが、2007 年には事業を後継企業へ譲り渡しました。これまでの成功は永年にわたるフェイラー社の協力なくしてはあり得なかったと考えていた山川夫妻は、日頃から感謝の気持ちをいつか、何らかの形で表したいと考えていました。

2012 年にアーロン氏が闘病の末に亡くなりましたが、和子氏は「いつか恩返しをしたい」という二人の気持ちをユルゲン・ホフマンホーエンベルク市長とフェイラー社共同オーナーであるダグマー・シュベート女史に話しました。その時、地方都市として高齢者福祉の充実が喫緊の課題であり、介護施設がないホーエンベルク市の窮状を聞いた和子氏は、ご主人を介護した経験からその大変さを実感していたこともあり、同市に高

齢者介護施設を寄付することを決めました。地方の小都市において高齢者介護施設が不足しているということだけでなく、若者の流出による過疎化が急速に進んでいるという課題もあることから、この介護施設の建設が市全体の活性化にも繋がるのではないかと考えたからです。和子氏は YSH 財団を設立し、施設の建設資金として 347 万ユーロを寄付することにしました。

このようなプロジェクトには前例がなく、2013 年に始まった具体的な施設のコンセプトづくりに際しては多くの課題を解決する必要が生まれました。幸いフェイラー社のシュベート女史から建設用地の提供を受けることが出来、またオーバーフランケン行政区区をはじめ、地方都市における高齢者福祉の充実を主要政策に掲げたバイエルン州政府からも助成金や基金の援助を受けることが出来ました。

完成した施設はホーエンベルク市の中心地にあり、9000㎡の敷地には 75 本もの桜が植えられ、1180㎡の平屋建てケア施設が設けられています。訪問支援介護、集中介護とデイケアの 3 棟から成る建物には日本的な建築要素も取り入れられています。入居者 16 名の他デイケアには 15 名を受け入れ、地域の重要な介護拠点となると同時に、地域住民や家族、高齢者と若者の新たな交流の場となることが期待されています。施設内にはそのための交流スペースも設けられています。

2017 年 11 月 16 日、バイエルン州健康介護省メラニー・フェメル大臣や木村徹也在ミュンヘン日本総領事、ホーエンベルク市長、フェイラー社の関係者が出席して盛大な竣工式が行われました。多くの地元メディアが取材に駆け付けました。“Yamakawa Seniorenhaus (YSH)” の完成を記念して、フェイラー社は桜の花をモチーフにした記念タオル「さくら」を発売しました。この売上の 10% は YSH に寄付されます。

式典では YSH を建設するまでに至った経緯や山川夫妻の思いを記したブックレットが配布されました。その中で和子氏は、YSH の役割と将来像について「施設や設備のような目に見えるもの (tangible) を充実させることはもちろん、いかに要介護者に寄り添った、誠実にして信頼される質の高い介護・看護ができるか、まさに目に見えない無形 (intangible) の介護も大事です」と書いています。そして、“Be Together” を一つのビジョンとして、YSH を中心に共存の精神が広く浸透するように、との思いを伝えています。

バイエルン州で生まれた一枚のシュニール織が、50 年の時を経てバイエルン州と日本をつなぐ大きな役割を果たしたことに驚くと共に、山川夫妻の情熱が物質的にだけでなく、精神的にもバイエルン州と日本を深くつなげたことに深く感謝申し上げると共に、心から敬意を払います。



YSHの入居者と交流する山川和子氏

## 8. 安川ヨーロッパ アラースハウゼン新社屋

産業用ロボットで有名な安川電機のドイツ現地法人 Yaskawa Europe GmbH (安川ヨーロッパ) はミュンヘン近郊のアラースハウゼンにあります。このアラースハウゼンに新社屋が増築され、2018年1月15日に開所式が行われました。同社のロボット部門が2012年にアラースハウゼンに移転し、その際に「安川通り」が新たに造られましたが、それから5年足らずで更なる拡張工事が行われました。

安川電機は1915年、福岡県北九州市にモーターメーカーとして創業しました。2017年には世界で35億ユーロを売り上げ、従業員は14,500人にもなります。安川電機が何故ヨーロッパで成功できたのか、安川ヨーロッパのマンフレッド・シュテルン社長が開所式でその理由を述べました。

- ・ 顧客の側に立つ姿勢を強化
- ・ 自由市場への重点的な対応
- ・ 欧州での生産拡大

シュテルン社長の話では、他の欧州企業が中国に注力している間、安川は意識的にヨーロッパに焦点を当てました。『中国に注力する企業が多い中、安川はそれに反してむしろ欧州を見ていた』、という小笠原浩安川電機代表取締役社長の言葉を引用しました。ヨーロッパでは、「インダストリー 4.0」や「完全自動化」など新しい開発が行われています。その中で「一軍の世界的プレーヤーを目指す企業は、欧州でドイツやその他の欧州の競争相手に勝たなければならない」と、シュテルン社長は述べます。自動化の必要性が高い欧州、まさにそのことが欧州製造業の良好な成長

## 9. バイエルンの歴史ー白い黄金「塩」

塩は私たちの生活に不可欠です。朝昼晩、いずれの食事にも欠かせません。今では大量生産できる安価なものになりましたが、かつて塩は「白い黄金」と呼ばれるほど高い価値を持っていたのです。

12～13世紀、バイエルンでは塩の取引が盛んでした。特にミュンヘンは塩の貿易で町が興ったと言えます。1158年、ハインリッヒ獅子公はフライジング領主司教オットーの所有していたオーバーフェーリングのイザール橋を破壊するように命令し、自身の領地であるミュンヘン近郊の橋を経由するよう塩貿易のルートを変更させます。これによってフライジング領主司教が受け取っていた塩の関税と橋の通行料を代わって徴収したので、こうしてミュンヘンは小さな集落から豊かな村へと変わっていきます。



更にベルヒテスガーデンやバートライヘンハルから届く塩を、数日間はミュンヘンの街に留め置いて販売しなければならない、という決まりを作ります。1332年にルートヴィヒ4世(神聖ローマ皇帝)は、南ドイツにおける塩の専売権をミュンヘンに認め、

を予想する根拠にもなっています。

安川ヨーロッパでロボット部門を統括するブルーノ・シュネッケンブルガー氏は、ロボット活用度が高く、経済が良好な国では就業率も高い、と述べました。従業員15人につき1台のロボットが稼働している韓国は、最もロボット密度の高い国です。シンガポールとドイツがこれに続き、日本は3位です。ロボットの活用度が高くなると雇用が奪われる、というのは矛盾している、ということでした。

バイエルン州のイルゼ・アイグナー経済大臣も開所式に来賓として出席しました。バイエルン州に深く根ざすという同社の決意があつて、このアラースハウゼン事業所の拡大が行われたことについて、大臣は心から歓迎しました。これはバイエルン州が優れた企業拠点であることを示しており、企業がバイエルン州という立地に満足していることを表しています。日本で創業し、「世界を舞台に、バイエルンから羽ばたく」、というバイエルン州経済省と Invest in Bavaria が掲げるモットーにピッタリと当てはまります。デジタル化時代の覇者となり、これからの競争を有利に進めるためには、ロボティクスとオートメーションへの特化が不可欠です。

開所式では来賓によるテープカットの後、驚くようなパフォーマンスが披露されました。旋回する安川のロボットの上で、太鼓奏者が大太鼓を演奏するのです。ゲストにはロボットが作るカクテルが振舞われました。安川電機では、10年を一つの重要な単位と位置づけているということです。これから10年後、アラースハウゼンの地で安川ヨーロッパがどのような発展をしているのか、今から楽しみです。

町は更に大きくなっていきます。これにより、ミュンヘンだけでなく、ベルヒテスガーデンやバートライヘンハル、マルクトシェレンベルクなど塩鉱山や塩田、製塩所のある地域も大きな恩恵を受けることになります。

ベルヒテスガーデン地方の歴史は「塩」なしには語れません。ベルヒテスガーデンの岩塩鉱業の歴史は12世紀にまで遡ります。1193年に塩の採取がシェレンベルクで始まりました。約300年後の1517年、ベルヒテスガーデンの岩塩鉱山が創業し、今や500年が経ちました。この500年を記念して、今年はベルヒテスガーデン地方で様々なイベントが開催されます。

歴史的な塩取引の足跡を、今ではツアーで追体験することができます。健脚向きにはザルツ・アルペン・シュタイクという特にハードなハイキングコースがあります。キーム湖からベルヒテスガーデン地方、ケーニヒス湖を経由してオーストリアのザルツカマーグートまで230キロ以上を歩く、18日間以上かかる行程です。それほど時間が取れないのであれば、ベルヒテスガーデンの塩鉱山を見学し、素晴らしい眺望を望めるハイキングコースもあります。ハイキングに限らず、ベルヒテスガーデンやその近郊では、塩の博物館や岩塩鉱山内部を見学し、かつて「白い黄金」と呼ばれた塩の世界を知ることができます。

### <バイエルン州駐日代表部について>

バイエルン州駐日代表部は1988年に日本(東京)に設立されたドイツ・バイエルン州経済運輸技術省の日本代表事務所です。日本企業のバイエルン州への企業進出(現地法人や駐在員事務所の設立など)や、貿易取引のビジネスパートナーとしてのバイエルン企業探しなどに関し、詳細な情報、豊富な実務経験に基づくアドバイスを無料で提供しています。関心をお持ちの方はお気軽にご相談ください。

### バイエルン州駐日代表部

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-11-1  
オランダヒルズ森タワー ROP 801  
TEL : (03) 6809-1416  
FAX : (03) 3433-1552  
E-MAIL: BAYERN@BAYERN-JAPAN.ORG  
HP: WWW.INVEST-IN-BAVARIA.JP  
WWW.BAVARIAWORLDWIDE.DE/JAPAN

代表  
Dr.クリスティアン・ゲルティンガー  
プロジェクトマネージャー  
田山 野恵